

4 苦手意識を払拭する工夫

広島県尾道市立向東小学校教頭 藤井浩治



広島県生まれ。2008年度まで広島県尾道市立土堂小学校に勤務。陰山英男校長在籍の3年間、教務主任として土堂改革に取り組み、数々の成果を上げる。光村図書 小学校・中学校「書写」教科書編集委員を務める。

小学校は、子どもたちが書写と出会う大切な時期です。今回は、特に左利きの子どもへの指導に着目しながら、子どもたちに、書写への苦手意識をもたせないような支援のあり方について、ご提案したいと思います。

1 左利きの子どもへの指導

(1) 左利きの特徴

近年、子どもの個性を尊重することを大切にし、左利きを右利きに矯正しようとする家庭が少なくなったためか、左利きの子どもが増えたように感じています。

野球やサッカーのように、スポーツでは、左利きが武器になることがあるでしょう。しかし、文字を書く場合、左利きにはいくつかの弱点があり、左利きの子どもたちが書写に苦手意識をもってしまうことがあります。

① 姿勢が崩れやすく、字形を整えにくい

通常、漢字や平仮名の横画は、左から右に書きます。左利きの人が文字を書く場合、自分の手が、書き終わった線を次々と隠していくことになるので、左利きの子どもたちは、自分の書いた文字を見ようと、右側から文字をのぞきこむようにして書くことになります。そのため、書くときの姿勢が悪くなってしまいう傾向にあります。同時に、自分の書く文字が見えにくいため、当然、字形を整えることが難しくなります。

② 筆圧を加減しづらい

右利きの子どもは筆記具を少し右に倒して引くように運筆します。いっぽう、

左利きの子どもは、少し左に倒して書くため、筆記具の先に向かって押すように線を引くことになります。ですから、鉛筆などの先端が硬い筆記具の場合、書いているときに必要以上に筆圧が強くなり、文字が太く濃くなることがあります。また、芯が折れやすかったり、紙を突き破ってしまったりすることもあります。

さらに、こうしたことを防ぐために、筆圧を弱めて書くようとして、横画の終筆を止めずに払うような書き方をしている例もよく見られます。止めがはっきりしないために文字が乱雑に見えたり、筆圧が弱いために薄くて読みにくい文字になってしまったりするのです。

(2) 右手で書くことの指導と配慮

① 子ども自身の納得が大切

冒頭で挙げたように、スポーツの世界では、左利きがむしろ有利に働くこともあります。また、箸でご飯を食べる、はさみを持つ、コンピュータのキーボードを打つなど、書くこと以外のほとんどの場面では、左利きで困ることはありません。

しかし、これまで述べてきたように、筆記具や書字動作は、基本的に右利きにとって勝手がよいようにできており、左利きは、文字を書くうえで難点が多くあります。

そこで、まず、「書くときにだけ、左利きには弱点がある」ということを、子どもや保護者に丁寧に説明します。そのうえで、子ども自身が納得し、書くときには右手を使うことに挑戦する意欲があるようなら、右手で書くことを指導していきます。この際、あくまでも、子どもと保護者の意思を尊重し、本人が納得して取り組めるように配慮することが重要です。

② 初めて筆記具を持つときがチャンス

筆記具を右手で持たせる指導は、もちろん、子どもたちが筆記具を初めて持つときにを行うのが最も効果的です。左手で

持つことが定着してしまつてからでは指導が困難となり、子ども本人への負担も大きくなってしまいます。ただ、多くの子どもたちは、小学校入学以前から、鉛筆を使い始めますから、初めて使うときから右手で持つ指導を行うためには、幼稚園・保育所との連携、家庭教育への働きかけが必要となってきます。

すなわち、多くの左利きの子どもたちは、小学校に入学する頃には、左手で鉛筆を持つことに慣れてしまっているのです。そうした子どもたちに、右手で持たせるよう指導するには、前述のとおり、彼ら自身や保護者の納得が必要ですから、その点は留意しましょう。

毛筆については、多くの子どもたちが小学校三年で初めて持つことになります。ですから、左利きの子どもに右手を使うよう勧めるには、この毛筆入門期の指導が最重要となります。

まずは、左手を使って毛筆で書くことの難しさを子どもに説明したうえで、「小筆や鉛筆は左手を使つたままでよいので、大きな文字は右手を使つて書いてみよう」と、優しく声をかけてみてください。

この時期は、利き手に関係なく、全ての子どもたちが、持ち慣れない毛筆で、たどたどしく書くところからスタートし

ます。左利きの子どもたちにとって、「自分だけが大変だ」という意識が少ない時期です。この初めての出会いを、大切に丁寧に経験させたいものです。

(3) 左利きの子どもへの配慮

毛筆についても、左手を使うことが定着しており、右手を使って書くことが困難な子どもたちに書写指導を行う場合には、次のようなことに配慮しましょう。

① 用具を左右逆に配置させる

通常、机の上に用具を並べるときには、半紙を中心にして、右側に筆と硯を、左側に教科書を配置します。しかし、左利きの子どもにとっては、右側に教科書を、左の内側に硯、外側に筆を配置するほうが書きやすくなります。

② 穂先の向きを意識させる

右手では、次ページのAのように、始筆の穂先の向きを正しく四十五度の角度にして書くことができます。しかし、左手ではそれが難しく、始筆の角度が、Bのようにマイナス四十五度(百三十五度)の向きになりがちです。左利きの子どもにとって、始筆の穂先の向きを正しく四十五度に向けることは困難を伴うものなのです。努力して書いたとしても、Cのように、九十度に向けてしまう場合が

2 文字を 形よく見せる工夫

左利きかどうかにかかわらず、自分の文字に自信がもてない子どもの苦手意識を軽減するためには、授業の充実は言うまでもなく、教師の側で、子どもたちの文字が少しでも整って見えるような工夫をすることが大切です。いくつかのアイデアをご紹介します。

(1) まとめ書きの用紙を工夫する

授業の最後に書く、まとめ書きでは、子ども自身が「書けるようになった」と実感できることを大切にしたいものです。そのために、用紙を工夫してみてもよいでしょう。少し高級な和紙、色画用紙、マーブリングした紙、色紙、板、紙皿など、いつもの半紙とは違う用紙に書くことで、子どもの文字が引き立って見えるようになります。

(2) 印を押す

まとめ書きに印を押すことで、子どもたちに、書家になったような気分を味わわせるのも一つの工夫です。

彫刻刀を使って、消しゴムなどに名前

多く見られます。

そこで、始筆の穂先の向きをより意識させるため、穂先マークの付いた「かご字」の練習用紙を準備します。学習指導書の付録CD-ROMには、図1のような「かご字」の練習用紙が収録されています。これらを活用するとよいでしょう。

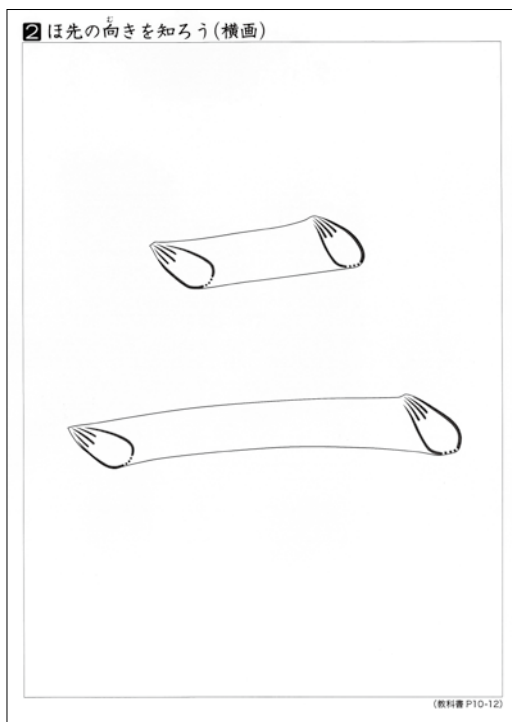
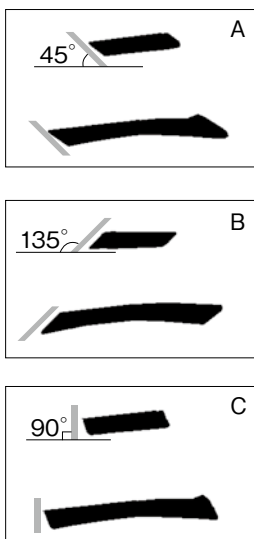


図1：「かご字」の練習用紙の例

④ 右上がりを意識させる

漢字は、横画を少し右上がりに書くと、文字が整って見えます。しかし、左手で書く場合、左から右上へと押し出すように力を入れて線を引くことになるので、横画を右上がりに書くことは難しいといえます。

横画を右上がりにすることを意識させるときにも、練習用紙が活用できます。図2のように、右上がりの補助線を入れた練習用紙を作成してみましょう。この補助線に沿って書く練習をすることで、

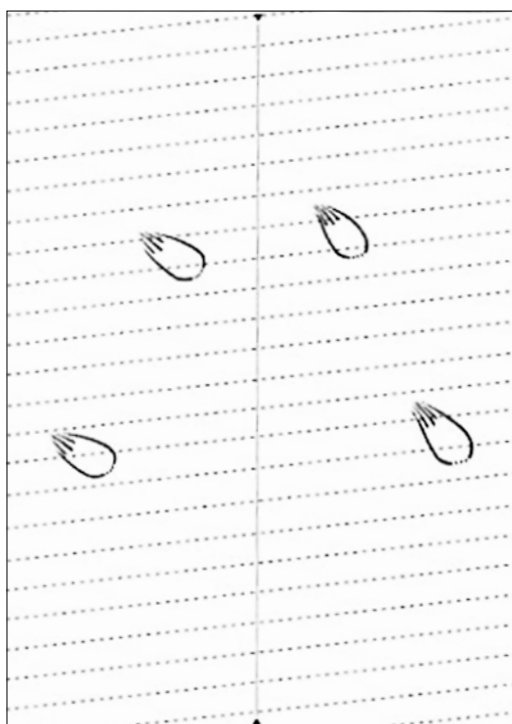


図2：補助線入りの練習用紙の例

の一文字を彫った印を子どもたちに作らせて、教室に常備します。図画工作の時間に作らせるのもよいでしょう。半紙に朱の印が入ると、子どもたちの文字がより際立って見えます。

(3) 絵の具で書く

通常の毛筆では、墨で文字を書きますが、絵の具を使って色の付いた文字を書かせることも工夫の一つといえます。色が付いているだけで、墨の文字とは違った見栄えになります。用紙の工夫と組み合わせてみましょう。

(4) 掲示のしかたを工夫する

掲示のしかたについても工夫ができます。書写掲示用のシートを使う、色や模様が付いた紙を台紙にする、半分に折った厚紙の左右に文字を貼ってミニ屏風を作る、額に入れるなど、掲示のしかたを変えただけで、文字の見え方が変わってきます。

(5) 名前の教材文字を与える

小筆で書いた名前が形よく書けていると、まとめ書き全体の印象もよくなります。子どもたち全員分の、名前の教材文字を準備するといった工夫も考えられま

少し右上がりの整った文字を書く感覚を養うことができます。

(4) 心がけたいこと

左利きの子どもたちは、文字を書くことへの苦手意識をもつことが少なくありません。なぜ書字が難しいのか、どうすればそれを克服できるのか——教師として、分析や工夫を怠らないことが、子どもたちを「書写好き」にすることにつながるものと考えます。

す。

必ずしも教師が手書きで作らなくても、コンピュータのワープロソフトを使い、筆文字・教科書体などのフォントで名前を入力し、印刷すれば、簡単に作ることができます。ラミネート加工を施して、子どもたち一人一人に配布するといでしょう。

3 おわりに

今回は、左利きの子どもたちへの指導と配慮を中心に、子どもの苦手意識を和らげるような指導のあり方や工夫についてご提案しました。子どもの書いた文字を、より形よく整って見せる工夫については、全ての授業というよりは、時に応じて行うのがよいと思います。

目的は、子どもたちの、書写の時間への意欲を高めることです。笑顔があふれ、わくわくする授業を、ともにつくっていきましょう。